

第 622 回：レポートはいかに作成するか（DM）

みなさま、こんにちは。

LA 毎週月曜 14:00~17:00 担当、博士課程（後期）の DM です。

前は、論文とはどういう文章であるのかを説明しました。おさらいすると、「読者に自分の主張を述べ、それを論証し、説得する型式」のことでした（小熊 2022:27）。その中でも、レポートという型式は、論証するためのデータを学術的な方法で集めなければならないという点においてエッセイよりも複雑で、主張の学術的な新しさは必須ではないという点において学術論文よりも単純な型式のことでありました。

では、こういう型式の文章を作成するためには、具体的にはどんな作業が必要になってくるのでしょうか？

ということで、今回は、レポートを作成する順序について、簡単にまとめていきたいと思います。

まず、こちらをご覧ください：

第 I 章 卒業（博士）論文とは何か。
何に役立つか

第 II 章 テーマの選び方

第 III 章 資料調査

第 IV 章 作業計画とカード整理

第 V 章 原稿作成

第 VI 章 決定稿の作成

第 VII 章 むすび (cf. エコ 1991: ii-iv)

これは、小説家としても有名なイタリアの記号学者ウンベルト・エーコが書いた『論文作法』の大まかな目次です。注目すべきは、第 II 章から第 VI 章までの章立てです。これ

は、レポート作成の順序にほとんどそのまま対応していると言えます。すなわち、1) テーマを選び、2) 資料を調査し、3) 作業計画を立て、4) 原稿を作成し、5) 完成させる——という流れが、ここには示されているのです。

レポートの作成方法については、大体は、この順序で説明されることが多いです。上記の小熊の定義も、1) (あるテーマについての) 主張を決め、2, 3) 論証のためのデータを集め、4, 5) 文章化して説得する、と捉え直せば、似たようなことを言っているのが分かります。ちなみに、私個人の場合は、「4」と「5」を一緒にして、1) 問題設定、2) 資料調査、3) 執筆計画、4) 原稿執筆——という言葉に置き換えています。自分の納得しやすい言葉で理解してください。

各順序よりも先に、順序の全体像について説明したのは、そうすることで、作業の優先順位を示したかったからです。作業順序からも明らかなように、「テーマ」、「問題」、「主張」、すなわち、目的をちゃんと決めなければ、その先の作業には、決して進んでいくことができないのです。

もちろん、実際に自分でレポートを作成していくと、作業は思うようには進んでいきません。テーマを決めるのにも一苦労ですし、調べていくうちに主張が変わることもあるでしょう。

しかし、最初に設定する目的は、仮のものでもよいのです。後で変更・修正するのは、駄目なことではない。むしろよくあることです。駄目なのは、目的を設定せず、作業を単なる調べ学習にしてしまうことです。物知りなだけでは、レポートさえ書けない。そのこ

第 622 回：レポートはいかに作成するか（DM）

とは、上記の作業順序からも明らかです。お互い、ここには十分に注意していきましょう。

というわけで、今回の LA 通信はここまでです。次回は、今回説明した作業手順の「1」、すなわち問題設定について、より詳しく説明していきたいと思います。みなさま、何とぞよろしくお願いいたします。

引用文献

ウンベルト・エコ（谷口勇[訳]）『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』 而立書房、1991 年：N801.6==28、書庫 1F（開架）

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書；2660）講談社、2022 年：K2660、閲覧室入口正面